

独立行政法人日本芸術文化振興会の平成 26 年度業務実績評価の結果を踏まえた平成 27、28 年度予算等への主要な反映状況

平成 27、28 年度の予算の状況

(単位：百万円)

年度	運営費交付金	国庫補助金等	施設整備費	その他、受託収入、自己収入等	総計
平成 27 年度	9,781	3,732	776	4,252	18,541
平成 28 年度	10,053	3,752	1,048	4,443	19,296

評価項目	平成 26 年度業務実績評価における主要な指摘等	左の指摘等を踏まえた平成 27、28 年度予算等への反映状況
国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置	<p>(伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演)</p> <p>① <u>公演事業については、おおむね計画通り実施されているが、目標入場者数未達の公演が見受けられることから、引き続きその要因分析と対策に努めることが求められる。</u></p> <p>(現代舞台芸術の実演家等の研修)</p> <p>② <u>演劇研修については、今後も優れた実演家を養成するため、研修内容の見直し等について検討していくことが求められる。</u></p>	<p>① 各館とも、目標未達の公演や入場者の増減等の分析については、<u>専門委員会等において意見聴取を行っている。また、役員及び関係部署で構成する会議において、売上状況・見込をもとに内容や収支について分析・検討を行い、観客アンケートの調査結果なども参考にしながら、企画や営業・広報・宣伝の面で見直しを図っている。</u> (伝統芸能分野入場率:28年度計画73.7%、27年度計画70.5% ※27年度劇場入場料等収入予算額2,043百万円) (現代舞台芸術分野入場率:28年度計画75.7%、27年度計画76.9%)</p> <p>② 新国立劇場の演劇研修所では、1年次・2年次において徹底的な基礎研修を行うことを重視している。入所希望者に対しては丁寧な事前説明と広報周知に努めるとともに、28年度入所生からは<u>1年次修了の段階で評価会により各研修生の進級を判断する仕組みを作り、奨学金支給年次についても2年次からの支給に変更した。</u>これに伴い、<u>入所予定者を12名程度から16名程度へと増やし、研修生同士が切磋琢磨してより充実した研修内容となるよう環境を整備していく。</u> (現代舞台芸術研修事業予算額：新国立劇場運営財団への委託費 28年度3,863百万円の一部、27年度3,520百万円の一部)</p>

以上